

角川SSコミュニケーションズ「毎日が発見」11月号より

立つときや座るとき、階段の上り下りで
ひざが痛い! と感じたらご用心

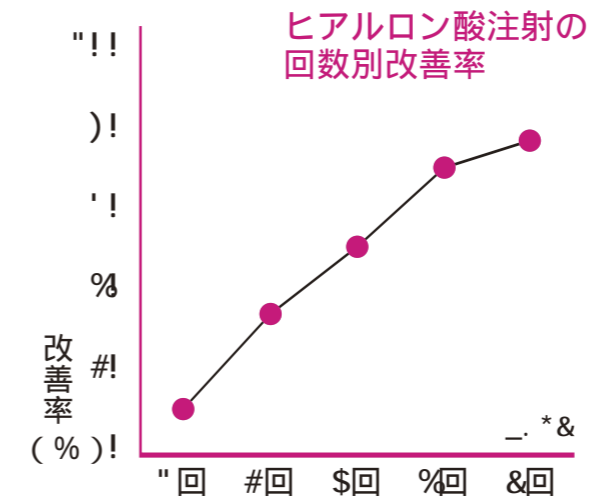
変形性ひざ関節症の 治療法

松野 博明(まつの・ひろあき)
松野リウマチ整形外科院長



病・医院名

油として働き、また軟骨の栄養となっているのです。
「ところが変形性ひざ関節症になると、ヒアルロン酸の濃度や分子量が減少し、関節液の質も落ちてしまいます」
ヒアルロン酸注射は、関節内に直接ヒアルロン酸を入れるので、関節液の質を容易に取り戻すことができるのです。関節内に質の落ちた関節液がたまっていく場合は、それを抜いてから入れます。
「ヒアルロン酸には炎症を抑え、痛みを起す物質を抑制する作用があります。さらに『栄養』として壊れた軟骨の修復を促し、ひざ関節の動きを改善するという万能的な働きが期待できます」
正常な関節液中のヒアルロン酸の分子量は非常に高いことがわかっています。日本で関節内注射に使用されるヒアルロン酸は、かつては分子量の低いものだけでしたが、現在ではバイオ技術の成果でより正常な関節液に近い高分子の製剤も登場しています。
「治療は通常、1週間に1回の注射を5回



続けます。きちんと注射を続ければ、症状の改善率は高く、注射が少々痛いという以外、副作用はまずないので安心して受けていただけます」
ヒアルロン酸注射は保険診療で、多くの整形外科で行われています。変形性ひざ関節症かもしれないと思ったら、まずは整形外科で相談してみましょう。



松野 博明(まつの・ひろあき)
1984年、近畿大学医学部卒業。千葉大学医学部附属病院などを経て、2000年、富山医科薬科大学助教授。同年、英国ロンドン大学リウマチ科留学(文部省在外研究員)。2003年桐蔭横浜大学先端医用工学センター教授、日赤医療センターリウマチセンター外来主任。2005年より現職。診療とともに整形外科学、関節外科学などを研究。

